

三度濱松市民の正義心に訴ふ!!

會社側の無智盲言を駁撃し 併而吾等の態度を宣明す!!

呆れた會社側の謔言

會社側は五月五日附を以て「濱松市民諸氏の股正なる御判断を乞ふ」の一文を半墨敷位の大きな紙面にダラ／＼と、小學生が書くおどろきの如き印刷物を諸賢に配布しました。此の印刷物の内容を通じて諸氏は、會社側の無智と不誠意が益々明かになり、彼等の子供らしい智識の低度をお知りになつたこと信じます。全くあの文面の如く、會社側の態度は滑稽なものであります。今回の文面の内容を要約すれば次の如きものであります。

第一には 今回の罷業は、日本労働組合評議會が煽動したものである。
第二には 日本労働組合評議會は、共産主義を主張してゐるから排斥するのである。

第三には 従業員は組合と手を切つて、會社へ平穩に出動して貰ひ度い。
第四には 會社は、土地の平安和樂の爲に労働組合を倒すために苦心してゐるから市民は同情して呉れといふ事。
第五には 争議は出鱈目な宣傳をやつてゐるといふ事。

第六には 争議團の脚並が揃つてゐない。
最後には 評議會の諸君は、早く争議から手を引いて濱松の地を立ち去つて呉れ、そして、そのためには桃太郎の子孫が簇々として出て来るから用意をしろ!といふこと。
以上を讀んでおきます。そこで、吾々は、大人氣なようにも考へますが、彼等を教育する意味に於て、取るに足らざるこの謔言を一々事實に依つて駁論致しませう。

第一の點 實にこの頃は愚劣極まる「自分の根性で事實を忖度するもの」で、凡て罷業と雖も機會を必要とすることは、御承知の事でありませう。それを根も葉も無しに煽動したからと云つて、五六名なら兎に角も、一千三百余名の従業員が共に起つて、然も今日に至る十日間、一絲亂れず結束を固めてゐる筈はないのでありませう。事實を測度するの甚だしいものであります。四月三十日の争議真相發表演説會によつても御承知の如く評議會の幹部と雖も、後になつて此の欺瞞の事を知つた位であつて、堂々たる争議團の態度と市民の同情が争議團に集つた爲に「狼狽した社長等の爲にする逆宣傳」であつた。「疑心暗鬼」を生むとは此の事を言ふのでありませう。要之に、争議の眞因はそんな路傍にあるのではなくて、樂器會社の不完全な設備や、職工酷使にあるのでありませう。之等を改めることこそ、要求の全部であります。株主は割二分の配當があり、開けば年未賞與を社長は一萬圓を、一割二分に引上げた相であるが、従業員の日給は話にならぬ小額なものであります。従つて従業員の生活は悲惨なものです。で不平や、要求一杯に満ちて居ますし、殊に天野社長は、憎惡の的となつて居ます。従業員は意志ではない等とは、眞赤な嘘であることは申す迄もありません。

第二の點 評議會は共産主義を主張すると言ふが如きは、馬鹿の骨頂であつて、經濟的革命的云々等、實に識者が讀むなら、笑止に價するもので、此の言葉の使ひ方等でも實に馬鹿馬鹿の利益のために、社長の如き「西洋の唯物思想の権化」も云ふべき貪欲な資本家氣質を、

決心は、自己の利益のためにはありません。濱松の地を愛する「ばこそ」とは實に厚顔しい限りであります。濱松市民の名を許る此の破廉恥漢を徹底的に刺すべきではありませんか。又自分の過失を蔽はんとして、評議員を危険なものである如く誹謗するに至つては、言語道斷ではありませんか。評議會は立派な労働組合であつて、危険視すべき理由は少しもありません。それでこそ、政府も充分理解してゐます。去るメーデーの示威運動に於ても、社長の中傷の如き團體でないことは署長にすらも「日本一否世界一」だとのメーデーを推稱したによつても明かではありませんか。即ち濱松の平和を亂すとかいふことは少しもないのであり、「日本精神」に反する労働組合一では是もなく堂々たる合法團體であり、三万数千の労働組合員の指導機關であることを聲明して憚らないのであります。社長こそ好んで争ひを事とする濱松の平和の破壊者であることは明かでありませう。

第三の點 従業員は評議會と手を切つて會社に平穩に出動して貰ひたい。おとなしい言ひ方ではあります。何たる圖々しさであり、狡猾さでありませうか。争議團は要求さへ通るなら平穩すぎる平穩に歸る事を躊躇するものではないのです。天野社長が生デッカ見識のある様な言葉を使つて組合(實は争議團)と敵はう等といふが如きくだらない頑迷さを固執すればこそ争議は解決せず悲惨な争議團員の家族を生んでゐるのであります。しかも此の罪を評議會に被せるに至つては狼の如き人間と言はねばなりません。争議團員は悲惨な家況にありながら何故お互のために犠牲になつてまで結束を固めてゐるのでせうか? **天野社長の極端な頑迷**にあることは云ふまでもありません。聞けば會社内でも此の社長の「わからなさ」に憤慨して紛擾を惹き起してゐるさうであります。實に内部からですら此の社長に非難の聲は高いので、何時までこんな強硬な態度に出るかはお察し難いにしても、やがて濱松市民諸君及び争議團員に平和提議者として非を謝するの日も近いことでありませう。私たちは唯彼の反省を促し一日も早く争議を解決せしむることを望むものであります。

第四の點 會社は土地の平安和樂のために労働組合を倒すために苦心して居るといふこと如何に殊勝な平和主義者の如く見ゆるこの社長並びに會社こそは組合の代りに盛に暴力を振ひ始めました。しかも「脅迫や暴力を以てする弱い者いぢり」は絶対にいけません。又評議會の諸君は申上げますの中に「諸君は暴力で給料の奪取をするのか、脅迫又は暴行或は傷害又は殺人の行爲によつて此の目的を達するののか、如何ですか」と言つた會社や社長を見よ! **天野社長の息の天野辰夫**といふ男は東京から暴力團數十名を引率してやつて來ましたが、「股正なる御判断を乞ふ」の大ビラを配布した五日の午後には自働車數臺に分乗せしめビラを配布して後車上で短刀をふところからノゾカせる一方大ダンビラの抜き身をふりかざして争議團切りくづしの演説をはじめたのであります。そして盛んに罵詈雑言を吐きつけて居るのであります。此等は、武器を持たない争議團を強迫脅嚇するためのものであり「傷害又は殺人の行爲によつて其の目的を達せんとする」社長並びに會社の手先なのであります。しかも急ぐくりの日本主義労働同志會の假事務所を作つて争議團の側に叩て喧嘩を賣りかけるに至つては唯驚く外はありませぬ。こんなゴロツキを一日四圓以上の日當を與へて使